

農園便り 8

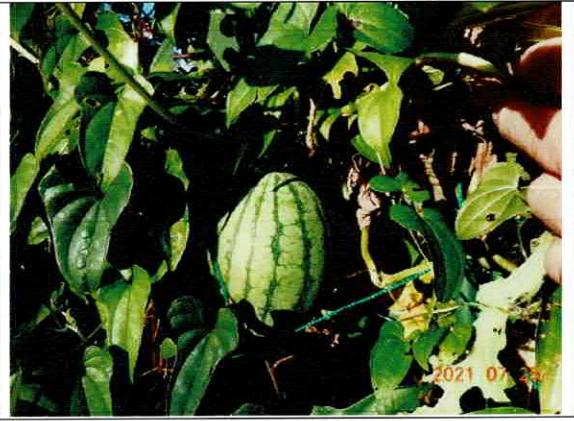
月号 (102号)

文責 筒口 典康

(2021/08/01)



7/22 3丁目農園の北口通路除草



トマトの雨除けシートの上にスイカが

7月20日に83歳になりました。双子の姉の「幸ちゃん」が先月他界してしまいました。この2~3年、二人だけの誕生会を「木曽路」でやっていました。が…、出かけるのがおっくうになっているようなので止めてしまった。

家族の方の話ですと、会うことが出来ても認知できないとの事で安否を確認することは控えておりました。コロナ禍の真っ只中でもありますし、見舞いませんでした。突然の訃報に驚きでした。

集団疎開先では寮母さん方にも可愛がられていた。NHKの朝ドラの「花子とアン」の花子似のかわいい女の子でした。学校の合唱祭や、会社でも伴奏をしたりしていて、人気者のようでありました。

疎開先での私は過度の栄養失調になり、死を宣告されていたようで、終戦を待たずに空襲で焼け出された飯田町の(千代田区)実家に戻りました。半年ほどは寝たり起きたりで、両親の苦労は並大抵で無かったと思います。衰弱から「黄肝症状」に。貴重な経験をしてしまいました。

「死んでしまっちゃあ、お終いよ」。これからどれくらい生きているかは解りませんが、大いに生きることを楽しんでまいりたいと思います。

朝起きて呼吸をしている自分。排尿している自分。朝食がうまい自分。そう、生理的な喜びを先ず楽しもう。感謝。

そして…、野菜作り。循環する、有機・無農薬栽培を追求する。これは実に「宗教」的生活であります。「野菜づくり」は全生命がかかわっている。知りたい！ 解りたい！ 安全で美味しい野菜作りを追求していきたい。

7月22日(木)早朝(5:30)農園に着く。 太陽は地平線。涼しい。園内の通路の雑草を取る。そろそろ秋冬野菜の種を蒔きましょう。

刈草マルチをどかして畝を作る。ナスの跡地の沃土には白菜を植える。小松菜、水菜、広葉の春菊、レタスの混植はやります。早生種のサヤエンドウ

そんなのがあれば良いのですが・・・、区民農園の返還が1月なので、無理か。

区民農園の土も2年目に入ると土が出来てきます。秋採りのキュウリも植えました。もう余地があまりありません。連続ポット鉢に播きまして、移植しましょう。

トマトの雨除けの上に、ヤノイモ、アピオス、モロッコインゲン、小玉スイカが駆け登り、ジャングル状態。大玉トマトはすっかり弱ってしまいました。

スイカもトマトの畝に這い回るようにと(地表の温度を下げる)植えたのですが、光を求めて雨除けに絡む。今年もスイカはダメかと思っていました。が、2果はいただけそう。抜かないで良かった。収穫をどの時点ですればよいのかが問題だ。巻きひげは見あたらないし・・・。スーパー「いなげや」で並んでいるスイカの蒂の色の具合を見てきましょう



7/11 キュウリ大収穫委 4本苗に 毎日4～6本も オクラ モロッコ ミニトマト・・・

今年はキュウリが大当たり。区民農園の隣の畑の農家の尾崎さんに報告しますと、『雨の降り方も良かった』、『うどんこもでなかったし』。一節、双成り果も結構発生しまして、元気。4本しか植えないのに1日に22～24本も取れた日がありました。とにかく大収穫。ちょっと取り遅れるとオバケ。大きめの方が甘味があって美味しい。スーパーのキュウリは小ぶりで美味しくない。収穫には頃合いがあるのであろう。

我が家では糠漬けを、生活クラブ生協提供の糠床でやっています。美味しい。糠漬け自慢の同僚がおりましたが、同じ味。とにかくうまい。



7/20 秋植えキュウリ植える その奥はパパイヤ 7/13 ミニトマト キュウリ モロコシ

トウモロコシの出来栄も良かった。 2列、東西畝に植えました。

トマト畝の北側と南に。北側は少し(10日ほど)早めに植えました。 トマトに雨除けシートをかけましたがそのネットに蔓物野菜が這い上がり、トウモロコシ達は、それぞれの列での自己受粉と言うことになりました。 それでも南側は実がきれいにそろいました。 北側は惨憺たる出来栄えになってしまいました。

南側の畝は、よく日が当たる。 肥料も多めに施しました。 畑地全体としましては肥効の少ない半分のところ。(1・6月号) 甘いし、粒がしっかりしている。

刈り取ったモロコシの茎葉をキュウリ畝のマルチに使う。 千川緑地で採取した茅は、ペチャンコになり初めましたので補充しました。 畑から捨てる物はない。 と、言うことなのです。

根元から離してし尿堆肥(グリーンランド)+カニ殻で追肥しました。 草マルチの上に置くだけです。 ⇒ オコウラククの作業



7/23 乾燥が減げしく、ホースリールを持ち込む

農園の北口散水する

梅雨明けから3日。 水遣りが大変な季節になりました。 暑い。8往復も。ぐったりです。 畑半分北側は湿潤を好む野菜。 南側に乾燥気味の幅広畝。(1・6月号)の構造にしてあります。 種を蒔いたり、苗を植える時に原産地を調べて、畑の構造を考えて扱うと、調子が良い。

スマホ、タブレット、コンピューター。 検索機能で何でも分かる時代になりました。 原産地に合わせて畑を使い分ける。 「納得の野菜づくり」と言うことになる。 で・・・、健康な野菜が出来る。 病虫害が目立たなくなってくると言う分けなのであります。

川口孝功(あつのり)氏の「これならできる自然菜園」農文協は、大変良く書いていまして、読むならこの本をお勧めします。 自然菜園は草ばかりはやしてと嫌われますが、そんなことはありません。 自然菜園は、草1本も無駄にしない循環型農法なのであります。 著者は、1977年の生まれの若い方です。 福岡正信氏に感化され、自然農法に取り組む。 農文協出版の月刊「現代農業」の常連出筆者でもある。

「草も野菜も微生物も自らが暮らしやすくなるよう、たえず土やお互いに働きかけながら生きています。この自然の営みを活かし、耕さず草を抜き取ら

ず野菜が、草や微生物など菜園の生き物と共存、共育ち(ともそだち)できる「自然栽培」を提唱している実践家。NHKカルチャースクールの講師も勤める。

7月23日(金) NHK BS1 7:00 「未来への分岐点」温暖化 水 食料 プラ汚染の放映は、川口氏の提案する内容と一致する点が多く、これからの世界の人口を支える基本的な考え方であると理解した。オリンピック開会式の放送と重なっていたのは残念でありました。多くの人々に見てもらいたい内容でした。再々放送を期待する。

4時30分、そろそろ空が白み始めている。さすがに涼しい。寝室の夜温が29℃。枕もとの水を飲む。

熱帯性の植物には喜ばしい季節であろう。ジャボチカバ、ミラクルフルーツ、パパイヤ、パッションフルーツ、トマトなどの機嫌が良い。水切れには弱いので気を付けている。庭先のコンポスト(国華園製)の自作堆肥で追肥する。

この堆肥には、ホッカイロ+米酢の液を希釈したものとか、医院でいただいた緩下剤のMg剤(当たり鉢で潰す)の余り、ハイポネック社のマグアンプK、果物の食べかす、台所の残渣、落ち葉、「糠」等を入れて、再発酵させます。灰は入れない。それで追肥。今のところ調子が良いので使っています。形状は有機物の形がある物、とろりと溶けてしまうまで分解したもの。その都度判断して与えています。バケツも亜鉛メッキしたものを使うようにしています。肥料成分を調べる方法は持ち合わせていませんので、恐る恐る使っています。5年ぐらいの間隔で硫酸Kを少な目に撒きます。畑の場合。微量要素の補充にと、刈草をマルチに使います。「千川緑道」に行けば、無料で手に入ります。全く、無用のものはありません。

今年の初夏から色々のジャムやジュースをいただきました。柚子、ブラックベリー(クワ科)、ヤマモモ、ウメ、夏蜜柑・・・。ご近所の京子ちゃん(編み物・情報の先生)、姪子のるりちゃん、農園で知り合った松田さんの奥様は、食品加工の名人である。「このオカワカメ何とかジャムにならないのでしょうか?」と私が言いますと、何と数日後に甘味のオカワカメのジャムと、バターを仕込んだペーストが届いたのであります。『色と、青臭いのが気になるが、マアマア』「これなら、商品化できそうだ」『ムリ・ムリ』と謙遜なさる。薄塩味のペーストも併せて提供すれば売れる。なにしろ「オカワカメ」は、繁殖力はものすごい。これを放っておく手はないのであります。薄塩味のペーストも食べてみたい。ジャムの色も中々。ヤマモモジュースもいただく。

ブロンコシードレスなるブドウが色つきました。見ました。ネズミ。小型のクマネズミか?。房の粒が少なくなっているのには気が付いてはいましたが、今年も襲われている。紙袋では防げない。銅でできたストッキング状の網袋が無いか探しています。ネズミは金属を嫌う。特に銅を嫌うようだ。製品化するメーカーがあっても良いものですがね。無い!! T